

国際科学史技術史・科学基礎論連合 IUHPST

/科学史技術史部門DHST/

International Union of History and Philosophy of
Science and Technology

/Division of History of Science and Technology

IUHPST...科学・技術の発展史や哲学・論理・方法、
社会との関係を研究する国際組織。

DHSTとDLMPSTで構成

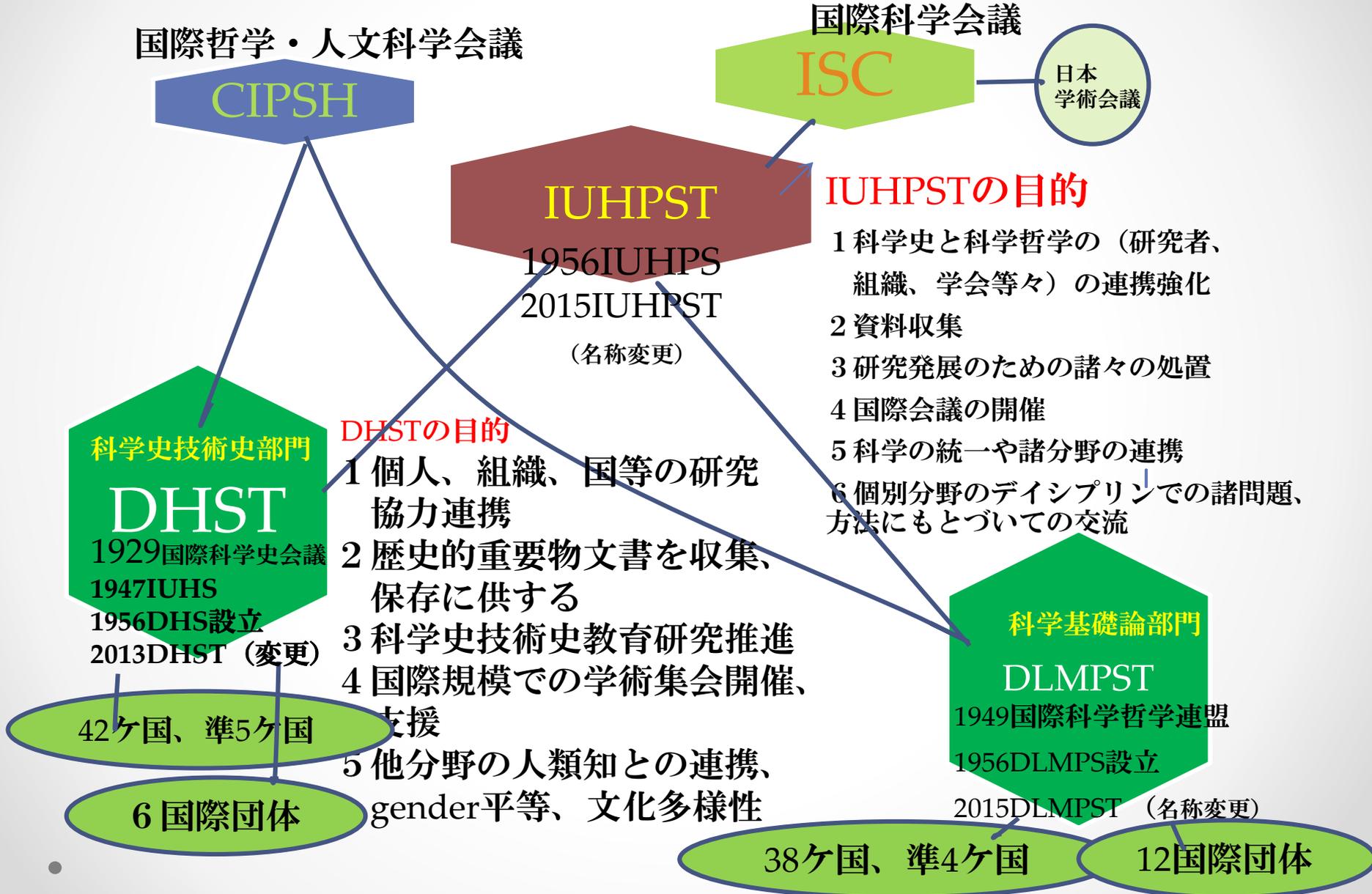
➡ DHST...科学・技術の歴史・発展諸要因や社会関係を
解明

加盟国：正規42ヶ国、準5ヶ国

傘下団体：他UnionとのInter-Union 6、歴史分科会 1 3

DLMPST との共同 4、科学史技術史国際団体 3

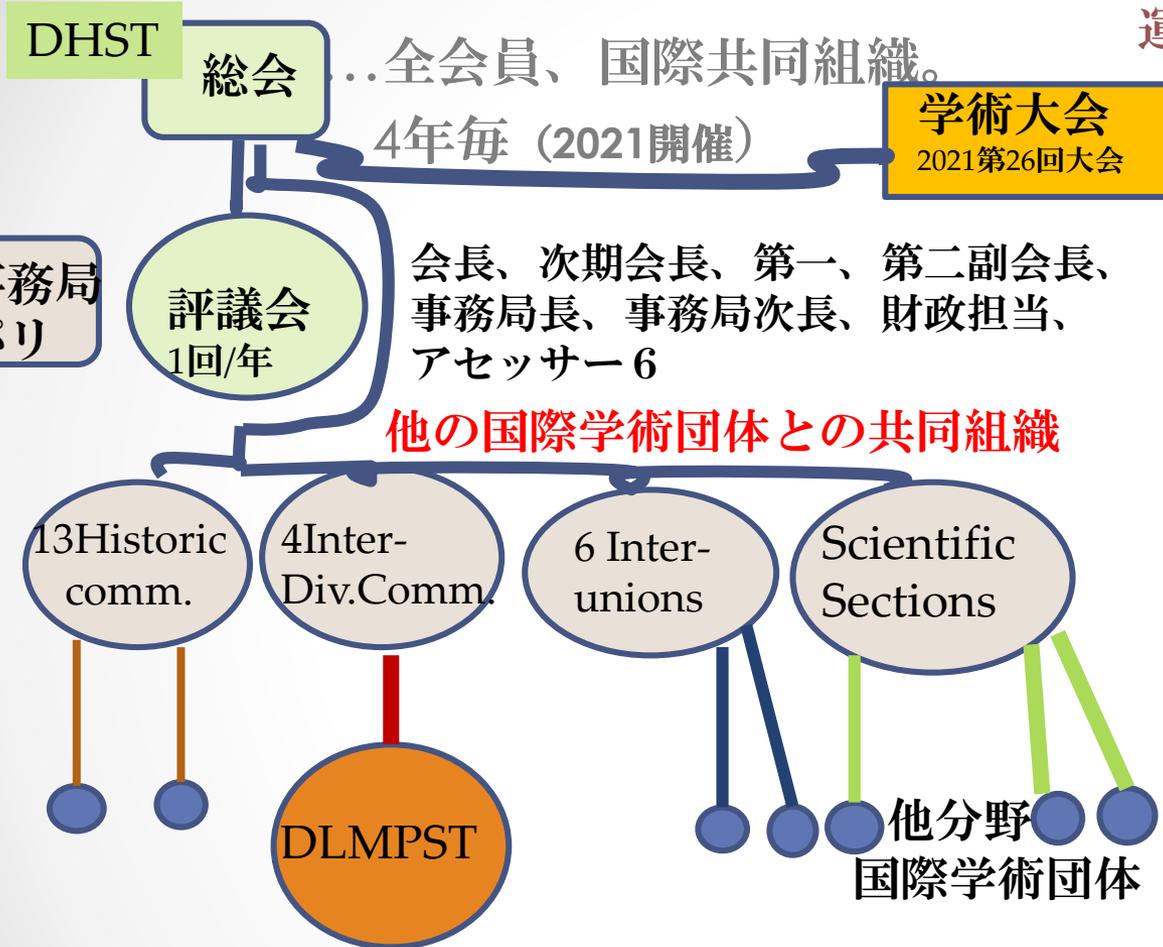
IUHPST/DHSTの目的と国際組織



IUHPST/DHSTの組織と運営

他の専門分野と連携して人類知を推進

運営の4側面



◎DHST自身の内部

- ◆学術研究 (大会、シンポ、個別分野研究会)
- ◆若手育成、論文賞
- ◆科学と社会関連問題
gender・equal., cult. diversity
持続的発展の科学

◎他学術国際組織との共同研究組織運営

- ◆ Interunion, commission など
- ◆ 他分野の研究発展と連携

◎DLMPSTと合同で形成しているIUHPSTの2年毎の運営

◎上部団体との連携

- ◆ ISC 加盟 (IUHPSTとして)

...主として自然科学社会科学

- ◆ CIPSH 加盟

...人文科学哲学

DHSTの事業と日本への影響

DHST最近の学術的成果

国際的規模での学術集会

- ・リオ大会での科学技術発展の「南北格差問題」
- ・プラハ大会での「科学発展での巨人と小人」

個別学術研究の進展—国際規模での問題分析
4年毎の学術大会・不定期シンポなど学術集会

持続的発展のための基礎科学年の取組

DHST最近の社会的取組

研究者の性格差解消、文化多様性

- ・DHST憲章への明記
- ・役員にgender and cultural diversity champion 役の導入
- ・gender問題の国際実態調査
- ・ISCなどとの気象学史分野での研究での国際的共同

日本への影響

科学政策への重要な示唆

- ・ワクチン供給・国際配分問題・格差問題への示唆
- ・研究政策への示唆
- 誤った科学史観の修正
- 人類的課題での共同研究

基礎科学振興の方策

日本への影響

・科学研究組織における示唆

- ・地球気候変動問題への取組
- ・科学者と社会問題への関わり方への示唆

日本学会連合・日本の研究者のDHSTへの貢献

組織運営への人的貢献

- 2017-21 橋本毅彦（東京大学大学院総合文化研究科教授）：DHST事務局次長
- 2021 伊藤憲二（総合研究大学院大学准教授）：ICHST国際プログラム委員
- 2021-25 菊池好行（愛知県立大教授）化学史・分子科学史コミッション副会長
- 2021-25 橋本毅彦（東京大学大学院総合文化研究科教授）：DHST第一副会長

<組織運営での具体例>

- 評議会の日本での開催
- 優秀博士論文の選定と表彰
- 各分科会報告の監査
- 科学史科学哲学優秀論文選定

学術的貢献

- DHST傘下の各分科会への参加
- 4年に一回開催の国際科学史技術史会議（ICHST）参加
- 国際科学史技術史会議でのプログラム委員会への参加

<国際科学史技術史学会への日本人の参加・論文発表>

2009	ブタペスト	40人
2013	マンチェスター	50人
2017	リオデジャネイロ	30人
2021	プラハ（オンライン）	30人